

銚子ノ口の成り立ちとにぎわった端村

端村集落の北に位置する県立自然公園に指定されている銚子ノ口は、どのように誕生したのでしょうか？

始まりは恐竜が生きていたころ、今から約6,500万年前のことです。まず海底で固い岩石（花崗岩、御影石など）が造られました。その後、海底火山が大爆発を繰り返し、硬い岩石の上に火山灰が厚く降り積もりました。これが比較的柔らかい凝灰岩（荻野石などの岩石類）になりました。これらが地上に顔を出し、硬い岩石が飯豊山や銚子ノ口のもととなり、比較的柔らかい岩石が今の山や盆地のもととなりました。そして約1,000万年前に阿賀川の水流に浸食され、山となり、河岸段丘や耕作地となりました。硬い岩石は川に削られることが少ないので、飯豊山の高い山容や銚子ノ口の切り立った岩となりました。

端村集落はそうしてできた銚子ノ口の南に位置し、古くは「^{おおしもの}大下野尻」と呼ばれ、下野尻の発祥の地ともいわれています。この少し南に1750年ごろまで「下野尻中嶋」という船着場がありました。塩川から運ばれてきた積荷（米）がここで船から降ろされていたため、端村は陸送への中継地として繁栄していました。近くには米の保管倉庫や検査役人の詰所、対岸への渡し場も設けられていました。

その後、中嶋は大水で流され、陸送への中継地は上野尻・柴崎の中嶋（ここは川の中央に島があった）に移されましたが、当時の端村には多くの人が行き交い、にぎわったことでしょう。現在は景勝地となった銚子ノ口を訪れた際には、当時のにぎわった端村（大下野尻）を想像し、かつての情景に思いをはせてみませんか。



↑現在の銚子ノ口



↑端村集会所付近



今月の表紙

今月の表紙は、9月15日〜17日にわたり行われた野沢祭礼から。16日の本祭りでは、「わっしょい、わっしょい」と威勢のいい声が町内に響きました（10ページに関連記事）

編集後記

朝晩めっきり涼しくなり、過ぎしやすい季節になりました。秋です。秋といえば、よく「○○の秋」と例えられますが、皆さんにとって秋は何の季節ですか？ 私の今年の秋はキャンプ。キャンプに行きたい気持ちが大変な大きさになっていきます。というのも、8月下旬ごろから行きたくて行きたくて、でも週末がいつも雨で、泣く泣く諦めていたからです。もちろん、雨でもキャンプできなくはないのですが、せっかくなら晴れた夜に星空を写真に収めたいところ。雪が降る前には行きたいなと思う今日この頃です。

山でのテント泊もしたい。長谷川祐一